

第 39 回愛媛小児糖尿病サマーキャンプに参加して

糖尿病分科会班長 小林知子

臨床検査技師の他 3 名のスタッフと共に、患児の血糖測定器の点検、ヘモグロビン A1c 測定、血糖測定の指導、災害時の対応についてのレクチャー、宿直(夜間の血糖測定)を行いました。

血糖測定器は患児がインスリン量を決めるのに精度が重要になってきます。今回の点検ではコントロール液による精度に関してすべて良好でしたが、時計設定のずれや、血液付着の機器がありました。

HbA1c についてはキャンプ事務局に伝え普段の血糖管理について参考にして頂きました。患児が学校や家でも、血糖値、食事量、運動量、インスリン作用時間を考えながら、インスリン量を調整できるよう、キャンプでの生活の中で、患児・スタッフと共に考えて調整していきました。

2 年前からインスリンポンプ(日本語表示の最新式) 使用の患児が増えており、私共スタッフが最近の治療についても身近に勉強することができました。また食事療法は食品交換表を基礎として炭水化物量も考慮したカーボカウントを導入していて私どもも勉強になりました。

今年は最近の測定器 FGM を希望した患児に装着しました。そのためキャンプ中の血糖管理がしやすかったです。今後も継続して、臨床検査技師の専門性を活かした活動をしたいと思えます。



臨床検査技師参加スタッフ



患児の HbA1c 測定



災害時対応のレクチャー